資料３－②

ニーズ実態調査の状況について【地域】
～コミュニティ・スクール連絡会議への参加～

コミュニティ・スクール連絡会議とは
地域で育てたい目指す子ども像や、９年間を見通した学校間及び学校と地域の連携方法について話し合う会議
＜参加者例＞区長会長、民生委員代表、高齢者クラブ代表、交流館長、PTA 会長、地域学校共働本部コーディネーター、校長、教頭　など

1　参加目的
・部活動の地域移行に対する市の考え方や現状を地域と共有する。
・地域の特色や実情、キーマンとなる人物等を知ることで仕組みづくりに生かす。

2　参加状況
・全中学校区（28 地区）中、25 地区の連絡会議に参加予定（５月 26 日～７月 15 日迄 18 地区に参加済）
・教育委員会学校教育課、生涯活躍部文化振興課・スポーツ振興課の３課職員で参加
・「豊田市の休日部活動の地域移行」、「部活動の地域移行を契機とした新たな仕組みの検討について」説明するとともに、各学校の地域連携の取組等について情報収集

3　説明に対する主な意見
・十分な現状把握や評価・分析がなければ、持続可能な仕組みはつくれない。
・子どものニーズや悩み事などをしっかり押さえた上で、制度を構築してほしい。
・地域人材の不足が懸念されるため、地域を超えた「人材バンク」も設けるべき。
・令和８年度からの目指す姿の『世代を超えた様々な人々が、子どもの活動に関わり、自らも楽しんでいる』の具体例を早く示しもらえれば自分たちの関わり方も考えられる。
・地域独自の施設や伝統芸能を活用してほしい。
・都市部と山間部の学校では状況が異なるため、市内一律ではない仕組みを考えてほしい。
・教員や地域学校共働本部の努力だけで検討・維持していくのは難しい。全市的な部活動の仕組を整理してから、地域に相談するべき。

4　考察
・地域によっては現状の理解に差があるため、一律の説明は意義があると感じた。
・地域特有の活動（伝統芸能や自然学習等）について知る良い機会となっている。
・どの地域も子どもに対する想いは強いため、理念や姿には共感・理解を得ている。
・一方で、現段階では具体的な手段や方策が示せていないため、地域も何を考えればよいか想像できず、意見が言えていない。
・今後はより具体的な絵姿を示し、それに対する意見を丁寧に拾う段階が必要であると考える。